

3201 328

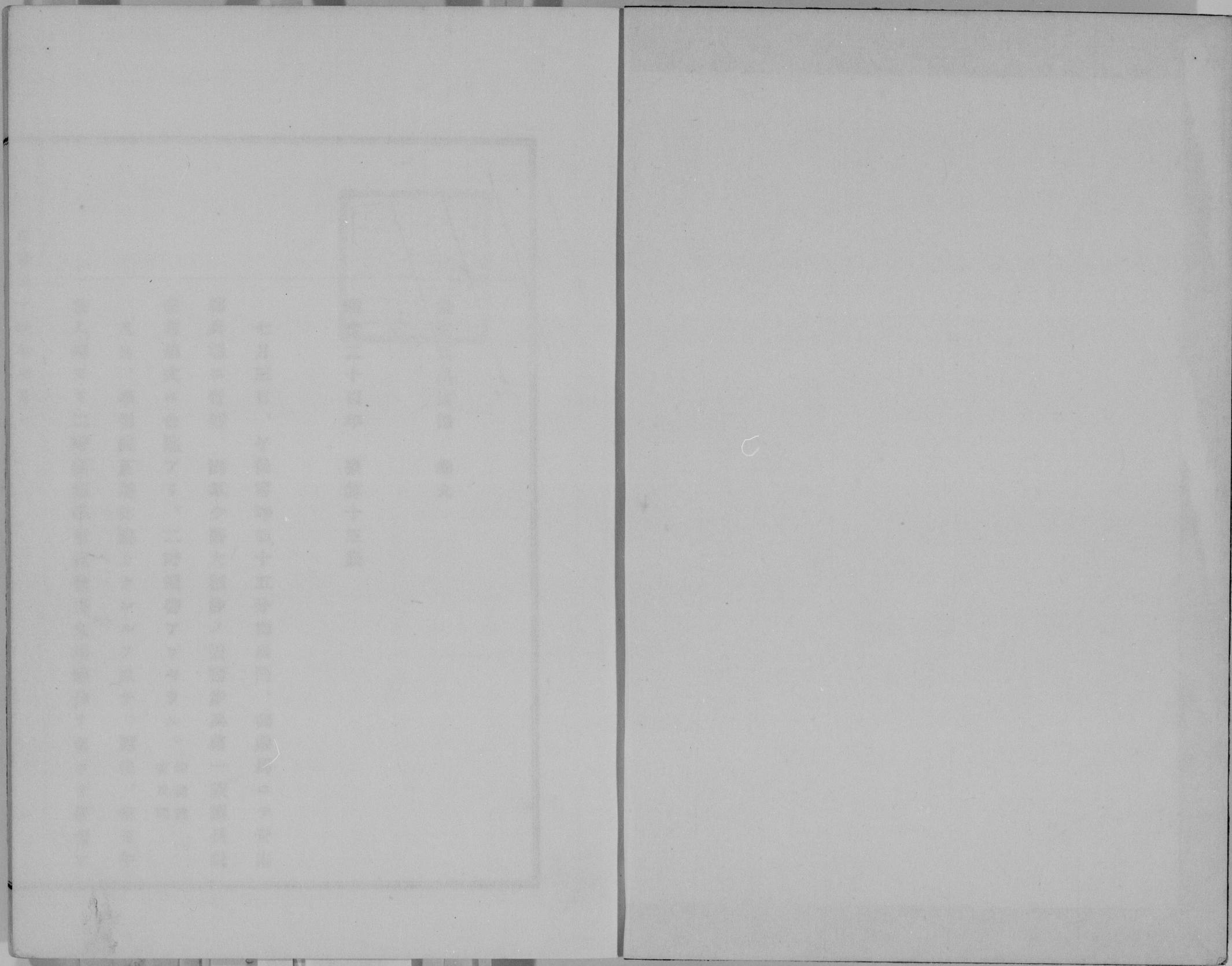
大正天皇實錄 卷九

圖書寮	
番號	64047
冊數	97
函號	秋 4



3201 329

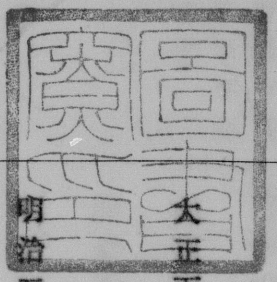
阿
菓子



Handwritten notes and labels at the bottom edge of the page, including the characters 'アスハナカ' and other illegible text.

3201 330

御上菓子



大正 天皇實錄 卷九

明治二十四年 實算十三歲

七月三日、午後零時四十五分御出門、御乘馬ニテ青山
 練兵場ニ行啓、陸軍少將大沼涉ノ近衛歩兵第一旅團長就
 任布達式ニ台臨アリ、二時還啓アラセラル。侍從武
 官日記
 八日、學習院夏期休業トナレルヲ以テ、爾後、毎日午
 前八時ヨリ二時間宛學習院教授丸尾錦作ヲ召シテ復習ア

明治二十四年七月

御上菓子

トスヘキク

明治二十四年七月

會我祐準等
ニ陪食ヲ賜
フ

ラセラル。侍從武官日記・高辻修長日記。

十一日、正午宮中顧問官子爵會我祐準。近衛歩兵第一旅團長陸軍少將大沼涉。近衛歩兵第一聯隊長陸軍歩兵大佐杉山直矢。元近衛歩兵第一聯隊長陸軍歩兵大佐田村寛一ヲ召シ午餐ノ陪食ヲ賜フ。畢リテ御庭ニ於テ弓。狹窄射撃等ヲ催サセラル。侍從長佐官日記

十四日、去ル明治十九年以來佛蘭西國ニ留學セル載仁親王歸朝ニヨリ、東宮武官公爵鷹司照通ヲ御使トシテ新橋停車場ニ遣サル。侍從武官日記・高辻修長日記・官報

十七日、學習院ニ於テ卒業證書授與式ヲ行フニヨリ同

圖書寮

學習院初等
學科四年級
御卒業

院ニ行啓、式場ニ台臨、初等學科第四年級卒業證書及ビ精勤表彰狀ヲ受ケサセラル。歸途參内、卒業ヲ奏セラレ、御晝餐後、青山御所ニ參候、同ジク啓スル處アリ、一時五十分還啓アラセラル。皇后、百科全書壹部七冊。手帳五冊等ヲ、皇太后置時計壹個ヲ賞トシテ賜フ。侍從武官日記・庶務課日記・官報・皇后宮職日記・皇太后宮職日記

因ニ本學年間ニ於ケル御學業ニ關シテハ、是ノ月、前御教養主任子爵會我祐準。東宮武官長奥保鞏ヨリ天皇ニ奉レル學習院教授東宮職御用掛丸尾錦作ノ御修學報告書ニ詳ナリ。仍リテ左ニ抄録スベシ。

明治二十四年七月

皇子

明治二十四年七月

御學業報告

本學年中殿下御修學ノ上ニ於テ最モ賀シ奉ルベキハ御健康ニ渡ラセラレ、本學年中ハ一日ノ御闕席モアラセラレズ、本年一二月ノ頃感冒症流行シ學習院學生ノ如キモ該病ニ罹リシモノ三分ノ二以上ニ及ビ、無闕席ノ學生員數僅ニ十五名ニ過ギズ。斯ク少數ノ人員中ニ在セラルルハ實ニ恭賀ノ至ニ堪ヘズ。其御結果ハ御智徳倍御進歩アラセラレ、斯ニ現級御卒業アラセラルルノミナラズ、高點ヲ得サセラレタリ。左ニ御性行竝ニ諸學課御進歩ノ概略ヲ記述シ謹テ報告ス。

四

圖書寮

僅ニ十五名
在セラルルハ一在
ハニ非スヤ

御性行

殿下御性質ハ御叔敏ニ渡ラセラレ、至善ノ御徳厚ク仁慈ノ御心深シ。サレバ自然ノ儘ニ御教育申上、而シテ品行ノ基礎ハ心意言行ノ二ツノモノ正理ニ合スルニアリト存ジ、常ニ御意向ノ如何御言行ノ正否ニ注目シ、其善美ヲ奨順シ或ハ其否ヲ匡正シ奉リ、務メテ誠實ヲ踐セラルル様御教育申上、又諸學課中殊ニ讀書口演ノ課ニ於テ事實ノ智識ヲ得サセラルルト共ニ、修身上ノ徳ヲ教育シ奉リ、尙又御歷代天皇ノ聖徳仁慈及ビ皇子諸王ノ御事蹟等ハ、時々講話シ奉レリ。然ルニ御年齢ヲ加ヘサセラルルニ從ヒ、御智

明治二十四年七月

五

トスヘキカ

本學年中殿下御修學ノ上ニ於テ最モ賀シ奉ルベキハ御健康ニ渡ラセラレ、本學年中ハ一日ノ御開席モアラセラレズ、本年一二月ノ頃感冒症流行シ學習院學生ノ如キモ該病ニ罹リシモノ三分ノ二以上ニ及ビ、無開席ノ學生員數僅ニ十五名ニ過ギズ。斯ク少數ノ人員中ニ在セラルルハ實ニ恭賀ノ至ニ堪ヘズ。其御結果ハ御智徳倍御進歩アラセラレ、斯ニ現級御卒業アラセラルルノミナラズ、高點ヲ得サセラレタリ。左ニ御性行竝ニ諸學課御進歩ノ概略ヲ記述シ謹テ報告ス。

僅ニ十五名

在セラルルハハ一在ラセラルルハニ非ス

殿下御性質ハ御叡敏ニ渡ラセラレ、至善ノ御徳厚ク仁慈ノ御心深シ。サレバ自然ノ儘ニ御教育申上、而シテ品行ノ基礎ハ心意言行ノ二ツノモノ正理ニ合スルニアリト存ジ、常ニ御意向ノ如何御言行ノ正否ニ注目シ、其善美ヲ奨励シ或ハ其否ヲ匡正シ奉リ、務メテ誠實ヲ踐セラルル様御教育申上、又諸學課中殊ニ讀書口演ノ課ニ於テ事實ノ智識ヲ得サセラルルト共ニ、修身上ノ徳ヲ教育シ奉リ、尙又御歷代天皇ノ聖徳仁慈及ビ皇子諸王ノ御事蹟等ハ、時々講話シ奉レリ。然ルニ御年齢ヲ加ヘサセラルルニ從ヒ、御智

3201 334

何
菓子

明治二十四年七月

國語科

徳モ益々發揚御進歩アラセラレタリ。

讀書

書取

六

圖書寮

作文

本學年中ニ記事文二十九題、通俗文十八題、合セテ
四十七題御練習アラセラレ、記事文ハ御見聞上ノ事
實又ハ諸學課ニテ御會得アラセラレシ事實ヲ記述シ、
通俗文ハ陛下ニ對セラルル尊稱、皇族諸王ニ對セラ
ルル等稱、或ハ臣下ニ命ゼラルル使令稱等練習ニ付
御注意申上、

明治二十四年七月

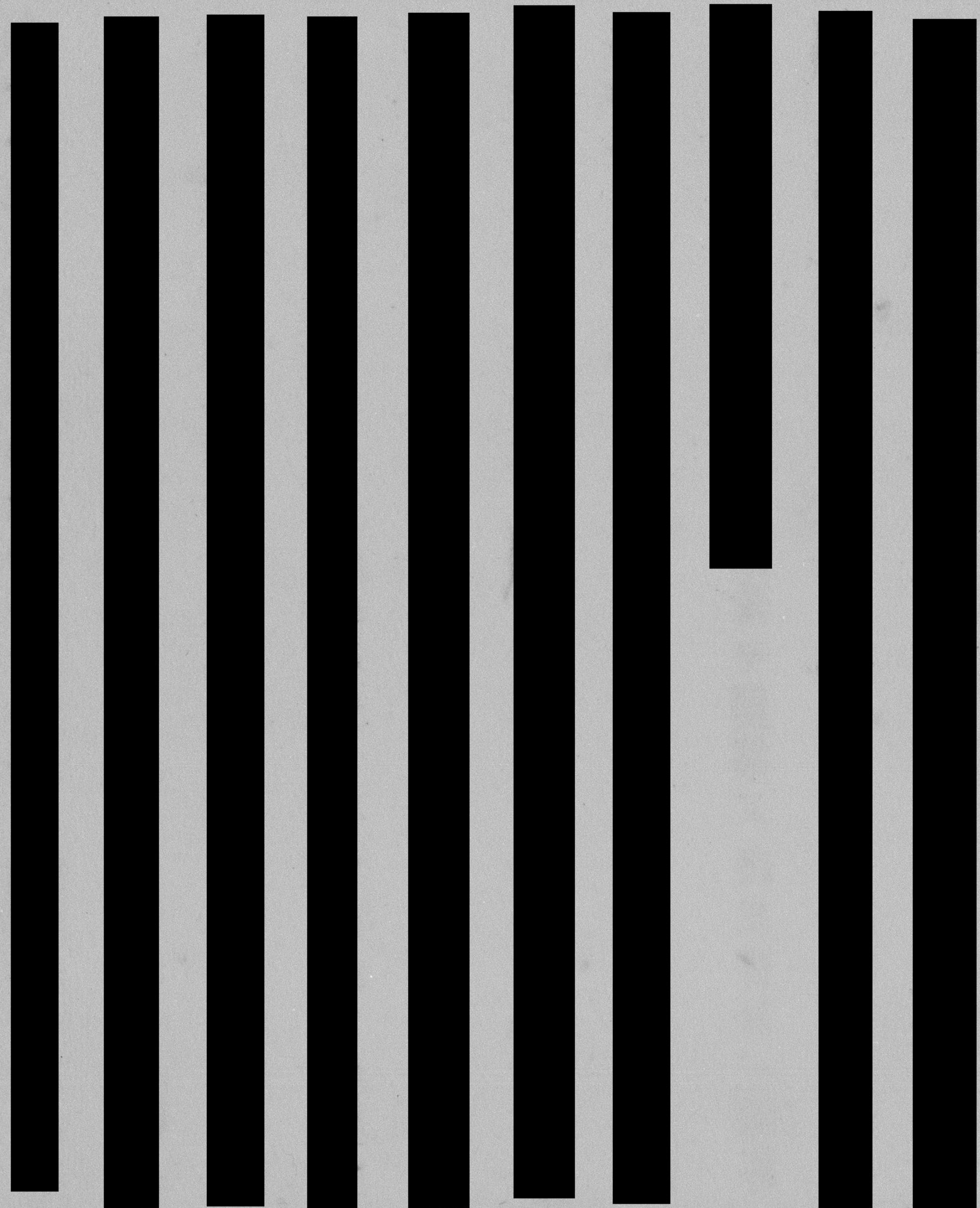
七

フナサミ
トスヘキカ
説

3201 335

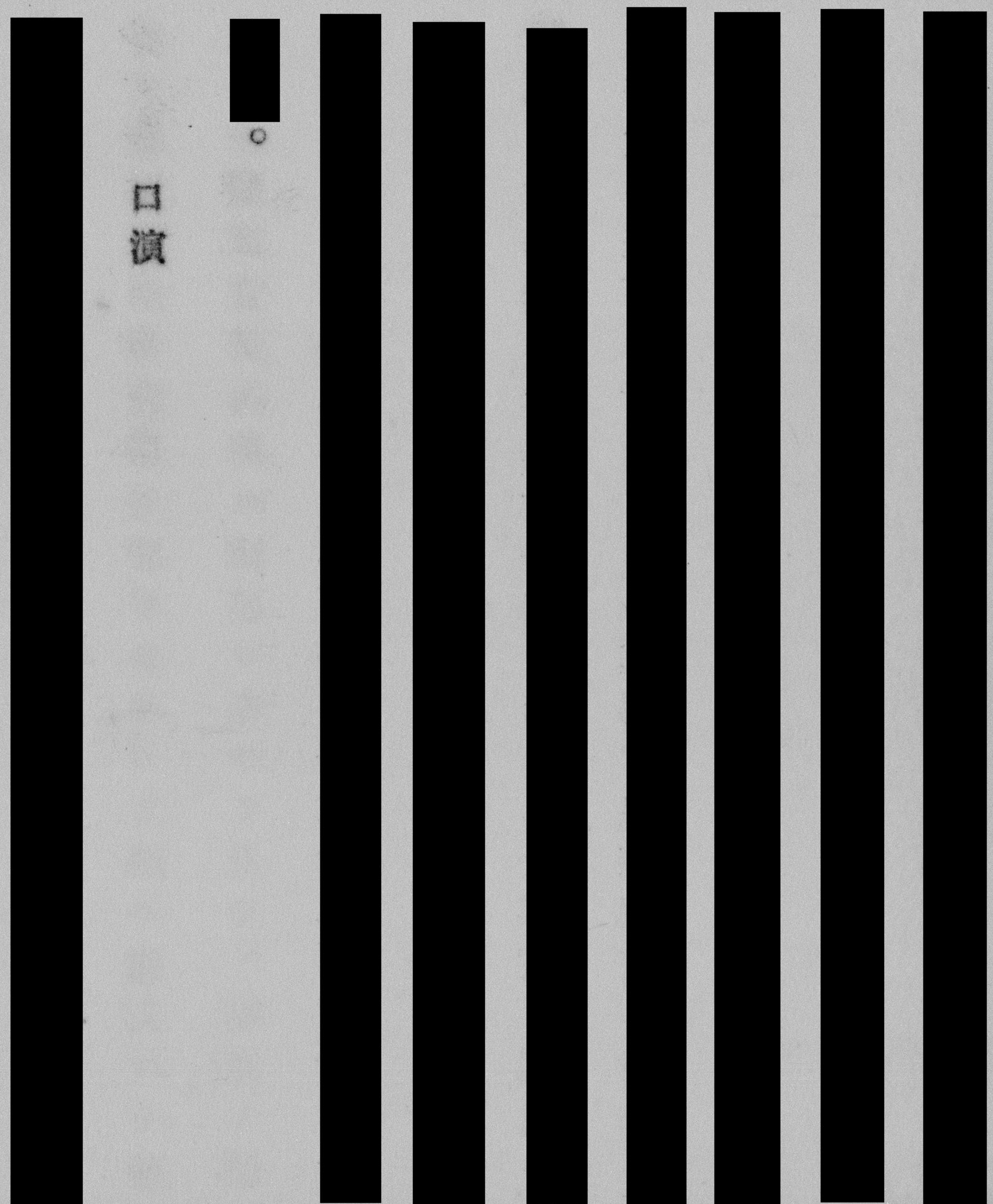
神子

明治二十四年七月



九

明治二十四年七月



口演

八

圖書寮

フナミシ
トスヘキカ
説

3201 336

④
菓子

明治二十四年七月

[Redacted text block]

一一

明治二十四年七月

數學科

算術

昨年九月ヨリ冬期休業ニ至ル迄ハ、前學期ノ續キニ
テ乘法ヲ御教授申上ゲシガ、

[Redacted text block]

圖書寮

一〇

フナサミ
トスヘキカ
ノ説

種子

理學科

動物

動物ハ前數學期間各種動物ノ性質。常習。效用等ニ付、實物教授ニテ御修學アラセラレ、本學期ハ動物課目ノ終結ナレバ、多少綱目ニ據リ、有脊。無脊椎ノ區別ヨリ始メ、哺乳類。鳥類。爬虫類。兩棲類。魚類ノ性質、各種結論ノ概略及ビ無脊椎動物ノ概略ヲモ御教授申上、殊ニ本課ハ熱海行啓中時々幻燈畫

圖書寮

有脊¹ハ¹有脊¹。

ニヨリテ各種動物ノ性質。常習。效用ヲ説明申上タレバ、

植物

本課モ動物ト同ジク、前數學期ヨリ實物教授ニテ御修學アラセラレ、本學期ニテ終結ナレバ、植物一般ノ總論及ビ根幹枝葉ノ各部性質ヨリ花實。種子ノ各部性質ヲ御教授申上タリ。此動物。植物ノ教授ニヨリテ

トスヘキカ

理學科

動物

動物ハ前數學期間各種動物ノ性質。常習。效用等ニ付、實物教授ニテ御修學アラセラレ、本學期ハ動物課目ノ終結ナレバ、多少綱目ニ據リ、有脊。無脊椎ノ區別ヨリ始メ、哺乳類。鳥類。爬虫類。兩棲類。魚類ノ性質、各種結論ノ概略及ビ無脊椎動物ノ概略ヲモ御教授申上、殊ニ本課ハ熱海行啓中時々幻燈畫

圖書寮

有脊椎ハ有脊椎カ

ニヨリテ各種動物ノ性質。常習。效用ヲ説明申上タレバ、

植物

本課モ動物ト同ジク、前數學期ヨリ實物教授ニテ御修學アラセラレ、本學期ニテ終結ナレバ、植物一般ノ總論及ビ根幹枝葉ノ各部性質ヨリ花實。種子ノ各部性質ヲ御教授申上タリ。此動物。植物ノ教授ニヨリテ

地理

地理課ハ本學期ニ於テ我國ノ大略ヲ教授スル配當ナレドモ、學制改正前ニ於テハ前學期中ニ地理課ノ設ケナキニ依リ、本學期ノ初ハ地理ノ觀念ヲ誘發スル爲ニ、昨年九月ヨリ冬期迄ハ本院近傍ノ地形ヨリ漸次進ミテ東京府内ノ地理ヲ御教授申上、皇城ヲ中心トシテ十五區ノ區別及ビ地圖ヲ練習アラセラレ、漸次ニ道路。丘陵。溝渠。城郭及ビ著明ナル建物等ノ位置ヲモ御教授申上タリ。今春一月ヨリ地理總論ニ及ビテ、水陸各部ノ名稱。生業ノ區別ヲ御教授申上、

藝術科

圖畫

夫ヨリ我國ノ位置。地勢。沿海。氣候。地味。産物等ノ大要ヲ申上、續キテ畿内八道。區劃。地勢及ビ三府。五港等ノ位置等ヲ御教授申上シニ、

本課目ハ本學年ヨリ始メタル課ニシテ助教須磨英一之ヲ擔當ス。初メ鉛筆ノ持方、曲直線ノ描方ヨリ直線工夫畫及曲直線紋畫ヲ御教授申上、兼テ位置。形狀。運筆及ビ描線ノ整美等ニ御注意申上、御清寫三十枚、追々御進歩ノ趣ナリ。

フナサミ
トスヘキカ
説明

習字

本課ハ助教授小此木辰太郎擔當シ、御教授ハ字形臨本ニ似タルヲ主トシ、位置。筆意。筆法ヲ正シ、楷書ニテ半紙一葉ニ二十字ヲ練習アラセラレ、永字八法化勢竝ニ日用文字三百九十六字ヲ御習ヒアラセラレ、

唱歌

本課ハ助教授納所辨次郎擔當シ、小學唱歌集第一卷ニ依リテ、第五番ヨリ第二十番迄御教授申上、其外

圖書寮

天長節。國會ノ歌。天津日嗣。正成ノ歌。紀元節ノ諸歌ヲ御教授申上、兼テ音階練習。歌詞略解ヲモ御教授申上、

體操

本課ハ學生監助手松岡實男擔當シ、昨年九月ヨリ冬期休業迄ハ矯正術十六節、本年一月ヨリ三月下旬迄ハ徒手體操第一運動二十四節、四月一日ヨリ七月四日迄ハ徒手體操第二運動四十八節御教授申上、時ノ遊戯ニハ器械ヲ用ヒ御運動ノ補助トシ、

上菓子

フナサミハ、
トスヘキカ
7
説明

右ノ報告書ニヨリ、御學業進歩ノ狀竝ビニ御健康ノ態ヲ
詳細拜察スルニ足ルベシ。明治天皇御
手許書類

是ノ日、恩召ヲ以テ、近衛歩兵第二聯隊。同第三聯隊。
同騎兵大隊。同砲兵聯隊。同工兵中隊。第一師團歩兵第
一聯隊。同第三聯隊。同騎兵大隊。同砲兵聯隊。同工兵
大隊。同輜重兵大隊ニ各銀盃壹個ヲ賜フ。贈賜
録

十八日、午後一時ヨリ狹窄射撃。柔軟體操。乘馬等ニ
就キテ御學友ト俱ニ、壹期試験ヲ受ケサセラレ、體操ニ
於テ []、乘馬ニ於テ []、射撃ニ於テ []ノ得點ヲ舉

圖書寮

演習合覽

ゲサセラル。侍從長佐
官日記

二十日、午前六時四十分御出門、南豐島郡代々木村ニ
行啓、同村近傍ニ於ケル近衛歩兵第三聯隊第六中隊ノ野
外演習ヲ台覽、九時十分還啓アラセラル。此ノ後、十月
四日ニハ南豐島郡雜司ヶ谷村ニテ近衛歩兵第一。第二聯
隊、同郡落合村ニテ近衛騎兵大隊ノ野外演習ヲ台覽アリ。
侍從長佐官日記。行啓録。
高辻修長日記。官報。

請暇ノ爲メ
參内

二十六日、午前九時御出門參内、尋イデ青山御所ニ參
候、明二十七日ヨリ避暑ノ爲、三重縣度會郡二見村ニ行
啓ノ御豫定ニヨリ請暇ヲ奏啓、十一時三十分還啓アラセ

フナサシム
トスヘキカ
説明

二見ニ行啓

ラル。侍從職日録。皇太后宮職日記。行啓録。高辻修長日記。官報。

二十七日、御避暑ノ爲、三重縣度會郡二見ニ行啓アラセラルルヲ以テ、御出門ニ先ダテ、東宮御所ニ於テ天皇。皇后。皇太后ヨリノ御使侍從米田虎雄。典侍高倉壽子。權典侍錦織隆子ニ謁ヲ賜フ。午前五時三十分御出門、新橋停車場ヨリ汽車ニ御搭乗、時ニ熾仁親王。貞愛親王。載仁親王。守正王。邦芳王ヲ始メ親任官以下學習院生徒等奉送ス。猶ホ各停車場ニ於テモ奉送迎ノ皇族以下諸員ニ謁ヲ賜フ。主ナル者左ノ如シ。

奉送迎者

停車場名

賜謁奉送迎諸員

圖書寮

横濱	詔津	靜岡	豊橋
詔久親王・神奈川縣知事内海忠勝	彰仁親王	靜岡縣知事時任爲基	歩兵第十八聯隊長陸軍歩兵中佐小島政利・豊橋大隊區司令官陸軍歩兵少佐磯村健亮

途中ノ御勅

皇太子、始メテ長途ノ行啓ニヨリ、御召車ノ西下ニ伴ヒテ、次第ニ展開セル景趣ニ御興淺カラズ。先ヅ沼津停車場ヲ過レバ、右ニ殘雪ヲ戴ク芙蓉ノ峰ヲ、左ニ洋々タル駿河灣ヲ望ミ、興津近傍ニ至レバ、遙ニ風光明媚ナル三保ノ松原。清水港ヲ眺メ、興津清見寺門前ヲ通過ノ際ハ、御學友ヲ招キ、曩ニ御淹留アリシ當時ヲ追憶アラセ

ラル。静岡ヲ過レバ一望萬頃ノ田野闊ケ、往時、鞏臺渡ニテ名アリシ大井川、日本三急流ノ一ナル天龍川ノ大鐵橋モ瞬時ニシテ通過、浩蕩深碧ナル濱名湖ニ出ヅ、山翠湖面ニ映發シ、白帆白鷗浮ビテ、其ノ風情掬スベキモノアリ。何時シカ豊橋ヲ過ギ桶狭間ノ古戰場ヲ右ニシテ、午後五時五十五分名古屋停車場ニ御下車、第三師團長陸軍中將桂太郎ヲ始メ、愛知縣知事岩村高俊以下官民諸員ノ奉迎ヲ受ケ、六時三十分御旅館ニ當テラレタル偕行社ニ安著アラセラル。御通路ハ各所ニ綠門ヲ造リ、戸毎ニ國旗。球燈ヲ連ネ、市民塔列シ、或ハ「君ガ代」ヲ唱ヒ

圖書寮

練兵ヲ台覽

或ハ萬歳ヲ叫ビ、晝夜花火ヲ打揚ゲ、行啓ヲ歡迎シ奉レリ。二十八日ニハ早朝ヨリ練兵場ニテ、第三師團精銳ノ練兵ヲ台覽、夫ヨリ黄金ノ鏡ヲ以テ名アル名古屋城ノ天守閣ニ御登臨、東北ニ殿。遠。信。飛ノ諸連峰、西南ニ濃尾ノ平野。伊勢ノ海、眼下ニ舊幕時代城下町跡ノ湊集スルヲ御覽アリ、桂第三師團長ヲシテ説明ヲナサシム。尋イデ第三師團司令部内庭ニ於テ將校一同ニ謁ヲ賜ヒ、午後一時二十分再ビ練兵場ニテ歩兵。輜重兵ノ諸技ヲ、御旅館ニ於テ將校。下士卒ノ武術仕合、名古屋市民ノ棒手仕合ヲ台覽アリ。夜ニ入レバ歩兵聯隊ノ軍歌。砲兵聯

説明ヲナサシム
メモラン
トスヘキカ

ラル。静岡ヲ過レバ一望萬頃ノ田野闊ケ、往時、鞞臺渡ニテ名アリシ大井川、日本三急流ノ一ナル天龍川ノ大鐵橋モ瞬時ニシテ通過、浩蕩深碧ナル濱名湖ニ出ヅ、山翠湖面ニ映發シ、白帆白鷗浮ビテ、其ノ風情拘スベキモノアリ。何時シカ豊橋ヲ過ギ桶狭間ノ古戰場ヲ右ニシテ、午後五時五十五分名古屋停車場ニ御下車、第三師團長陸軍中將桂太郎ヲ始メ、愛知縣知事岩村高俊以下官民諸員ノ奉迎ヲ受ケ、六時三十分御旅館ニ當テラレタル偕行社ニ安著アラセラル。御通路ハ各所ニ綠門ヲ造リ、戸毎ニ國旗。球燈ヲ連ネ、市民堵列シ、或ハ「君ガ代」ヲ唱ヒ

練兵ヲ台覽

或ハ萬歳ヲ叫ビ、晝夜花火ヲ打揚ゲ、行啓ヲ歡迎シ奉レリ。二十八日ニハ早朝ヨリ練兵場ニテ、第三師團精銳ノ練兵ヲ台覽、夫ヨリ黄金ノ鏡ヲ以テ名アル名古屋城ノ天守閣ニ御登臨、東北ニ駿。遠。信。飛ノ諸連峰、西南ニ濃尾ノ平野。伊勢ノ海、眼下ニ舊幕時代城下町跡ノ濔集スルヲ御覽アリ、桂第三師團長ヲシテ説明ヲナサシム。尋イデ第三師團司令部内庭ニ於テ將校一同ニ謁ヲ賜ヒ、午後一時二十分再ビ練兵場ニテ歩兵。輜重兵ノ諸技ヲ、御旅館ニ於テ將校。下士卒ノ武術仕合、名古屋市民ノ棒手仕合ヲ台覽アリ。夜ニ入レバ歩兵聯隊ノ軍歌。砲兵聯

説明ヲナサシム
トスヘキカ
説明ヲナサ

名古屋ヲ御
出發

隊ノ戰鬪花火。工兵中隊ノ同光電信使用等ノ御慰ニ御機
嫌殊ノ外麗シ。明クレバ二十九日、午前七時三十分御出
門、名古屋停車場ヨリ汽車ニ御搭乗、武豊停車場ニ到ラ
セラレ、同所棧橋ヨリ短艇ニテ、軍艦浪速ニ御移乘アリ。
航海中ハ艦長海軍中佐新井有貫ニ案内セシメ艦内ヲ御巡
覽アリ。午後一時鳥羽港ニ投錨、鳥羽鐵工場波止場ヨリ
御上陸、答志英虞郡役所ニテ御少憩ノ後、人力車ニテ二
見海濱ナル賓日館ニ三時御安著、奉迎ノ邦憲王ニ御對面
アラセラル。是ヨリ御淹留凡ソ三週間ニ及ブ。
抑々二見ノ地ハ伊勢海ノ南盡ニ位シ、山田ヲ距ルコト

賓日館御著

二見ノ勝景

圖書寮

里餘、倭姫命ノ故事ニ因ミテ此ノ名アリト傳フ。前方滄
海ヲ隔テテ尾張ノ師崎及ビ三河ノ伊良胡崎ヲ望ミ、左方
遠ク雲煙縹渺裡ニ北勢ノ諸山聳エ、後方ヨリ海面ニ突出
セル香無山ノ一角ハ怒濤激撃ノ爲、二大奇岩トナリテ聳
立ス。コレ即チ二見ノ立岩ナリ。早曉旭日ノ海上ヨリ忽
焉トシテ昇天シ、光彩兩岩ニ映ズル狀ハ絶景ト稱セラル。
加フルニ海濱一帶ハ白砂青松ニシテ、清澗ノ名アリ。御
旅館タル賓日館ハコノ地ニアリテ、往年皇太后神宮御參
拜ノ砌、御旅館タリ。又其ノ名ハ熾仁親王ノ附スル處ト
云フ。

④ 菓子

中対面
非也

名古屋ヲ御
出發

隊ノ戰鬪花火。工兵中隊ノ同光電信使用等ノ御慰ニ御機
嫌殊ノ外麗シ。明クレバ二十九日、午前七時三十分御出
門、名古屋停車場ヨリ汽車ニ御搭乘、武豊停車場ニ到ラ
セラレ、同所棧橋ヨリ短艇ニテ、軍艦浪速ニ御移乘アリ。
航海中ハ艦長海軍中佐新井有貫ニ案内セシメ艦内ヲ御巡
覽アリ。午後一時鳥羽港ニ投錨、鳥羽鐵工場波止場ヨリ
御上陸、答志英虞郡役所ニテ御少憩ノ後、人力車ニテ二
見海濱ナル賓日館ニ三時御安著、奉迎ノ邦憲王ニ御對面
アラセラル。是ヨリ御淹留凡ソ三週間ニ及ブ。
抑々二見ノ地ハ伊勢海ノ南盡ニ位シ、山田ヲ距ルコト

賓日館御著

二見ノ勝景

圖
書
寮

中対面ハ
市対面トスヘシ
非也

里餘、倭姫命ノ故事ニ因ミテ此ノ名アリト傳フ。前方滄
海ヲ隔テテ尾張ノ師崎及ビ三河ノ伊良胡崎ヲ望ミ、左方
遠ク雲煙縹渺裡ニ北勢ノ諸山聳エ、後方ヨリ海面ニ突出
セル香無山ノ一角ハ怒濤激撃ノ爲、二大奇岩トナリテ駢
立ス。コレ即チ二見ノ立岩ナリ。早曉旭日ノ海上ヨリ忽
焉トシテ昇天シ、光彩兩岩ニ映ズル狀ハ絶景ト稱セラレ。
加フルニ海濱一帶ハ白砂青松ニシテ、清澗ノ名アリ。御
旅館タル賓日館ハコノ地ニアリテ、往年皇太后神宮御參
拜ノ砌、御旅館タリ。又其ノ名ハ熾仁親王ノ附スル處ト
云フ。

御淹留中ノ御動靜

御淹留中ノ御日課ハ海水浴ヲ主トシ、毎朝凡ソ二時間御學習後、之ヲ行ハセラル。其ノ他、水泳。武術。幻燈等御見學ノ事屢ムアリ。

海水浴

海水浴ハ午前十時及ビ午後二時前後ヲ期シ約三十分ヲ限度トス。抑々此ノ地ハ遠淺ニシテ且ツ廣闊ナルヲ以テ活潑ニ御運動アリ、遂ニハ浮袋等ヲ用ヒズ浮游アラセラルルニ至レリ。八月九日ニハ午前十時三十分ヨリ觀海流游泳術ヲ台覽アリ、津尋常中學校生徒五十三名、賓日館西北三十町ノ地點ヨリ魚貫シテ觀海流水泳法ヲ行フ。此ノ泳法ハ伊勢ニ起リ關西ニ擴ガレル平游ニシテ、其ノ法

武術台覽

ヲ遊ル事極メテ嚴ナリ。尋イデ西瓜參拾個ヲ賜ヒ、水中ニ於テ競奪セシメ、更ニ游泳術練習ノ狀竝ビニ役上ノ游泳等ニ與ゼラル。

武術ニ就キテ敘シ奉ルニ、八月一日ヨリハ親シク弓術ノ御稽古アリ。猶ホ津市養正高等小學校生徒・神西皇學館生徒及ビ有志等ノ銃劍術ヲ始メ擊劍・柔術・弓術等台覽ノ事亦尠カラズ。八月十六日神社町外ニテ有志ノ弓術竝ビニ柔術台覽ノ際ノ如キ七十四歳ナル山中嘉平、七十六歳ナル中村甚三ノ演武ノ狀、壯者ヲ凌グノ神技タリ。特ニ御菓子ヲ賜ヒテ賞讃アラセラル。

御菓子

御菓子

御淹留中ノ御動靜

御淹留中ノ御日課ハ海水浴ヲ主トシ、毎朝凡ソ二時間御學習後、之ヲ行ハセラル。其ノ他、水泳。武術。幻燈等御見學ノ事屢ムアリ。

海水浴

海水浴ハ午前十時及ビ午後二時前後ヲ期シ約三十分ヲ限度トス。抑々此ノ地ハ遠淺ニシテ且ツ廣闊ナルヲ以テ活潑ニ御運動アリ、遂ニハ浮袋等ヲ用ヒズ浮游アラセラルルニ至レリ。八月九日ニハ午前十時三十分ヨリ觀海流游泳術ヲ台覽アリ、津尋常中學校生徒五十三名、賓日館西北三十町ノ地點ヨリ魚貫シテ觀海流水泳法ヲ行フ。此ノ泳法ハ伊勢ニ起リ關西ニ擴ガレル平游ニシテ、其ノ法

圖書寮

武術台覽

ヲ遅ル事極メテ嚴ナリ。尋イデ西瓜參拾個ヲ賜ヒ、水中ニ於テ競奪セシメ、更ニ游泳術練習ノ狀並ビニ伎上ノ游泳等ニ與ゼラル。

武術ニ就キテ敘シ奉ルニ、八月一日ヨリハ親シク弓術ノ御稽古アリ。猶ホ津市養正高等小學校生徒。神宮皇學館生徒及ビ有志等ノ銃劍術ヲ始メ擊劍。柔術。弓術等台覽ノ事亦尠カラズ。八月十六日神社町外ニ。村有志ノ弓術並ビニ柔術台覽ノ際ノ如キ七十四歳ナル山中嘉午、七十六歳ナル中村甚三ノ演武ノ狀、壯者ヲ凌グノ神技タリ。特ニ御菓子ヲ賜ヒテ賞讃アラセラル。

後座トシ
ハ「限度トセム」トスル
○

奥書トシ
ハ「」

幻燈台覽

次ニ八月二日ニハ午後七時三十分ヨリ三重縣知事成川
 尚義ノ催シ奉レル蒙古裝束ノ幻燈ヲ台覽アリ。長シモ總
 山上皇、國難御祈禱ノ狀ヲ始メ當時ヲ追憶セシムル二十
 數葉ニ就キ、作者湯地文雄ノ説明ヲ聽取アツセラル。因
 ニ畫面ハ福岡市外千代ノ松原ニ文水・弘安兩役記念碑建
 設ノ募金ト、國民ノ志氣ヲ鼓舞センガ爲、史實ニ據リテ
 作製セルモノナリ。猶ホ八月十七日ニハ歴史・地理ニ關
 スル幻燈ヲ台覽アリ。

以上ハ御日常ノ一端ニシテ、其ノ他特ニ謹述スベキモ
 ノハ御淹留ヲ機トシ神宮ニ參拜アラセラルコト是ナ

神宮御參拜

リ。抑、神宮ニ皇太子御參拜ノ事、遠クハ桓武天皇ノ御
 代、安殿親王ノ例アリト雖モ近ク其ノ例無シ。今ヤ皇太
 子ノ御參拜ハ後世ノ範タルモノアリ。從ヒテ其ノ儀嚴肅
 タリ。即チ八月六日御豫定ノ如ク之ヲ行ハセラル。午前
 六時細雨中人力車ニテ賓日館ヲ御出門、七時外宮行在所
 ニ行啓、略裝ヲ陸軍歩兵少尉ノ正裝ニ改メ給ヒ、禰宜ニ
 先導セシメ御車ニテ第二鳥居迄參進、大麻及鹽ニテ御潔
 齋アリ、板垣御門外ニテ下乗、夫ヨリ御徒歩ニテ外玉垣
 御門ヲ經テ内玉垣御門ニ入ラセラレ御手水ノ事アリ。更
 ニ瑞垣御門ノ御幌内ニ入り正殿階下御座ノ濱床ニ著キ給

作進カ
 問ノ進カカ

書面

幻燈台覽

次ニ八月二日ニハ午後七時三十分ヨリ三重縣知事成川
 尚義ノ催シ奉レル蒙古襲來ノ幻燈ヲ台覽アリ。長シモ龜
 山上皇、國難御祈禱ノ狀ヲ始メ當時ヲ追憶セシムル二十
 數葉ニ就キ、作者湯地文雄ノ説明ヲ聽取アラセラル。因
 ニ畫面ハ福岡市外千代ノ松原ニ文水・弘安兩役記念碑建
 設ノ募金ト、國民ノ志氣ヲ鼓舞センガ爲、史實ニ據リテ
 作製セルモノナリ。猶ホ八月十七日ニハ歴史・地理ニ關
 スル幻燈ヲ台覽アリ。

以上ハ御日常ノ一端ニシテ、其ノ他特ニ謹述スベキモ
 ノハ御淹留ヲ機トシ神宮ニ參拜アラセラレタルコト是ナ

神宮御參拜

リ。抑々神宮ニ皇太子御參拜ノ事、遠クハ桓武天皇ノ御
 代、安殿親王ノ例アリト雖モ近ク其ノ例無シ。今ヤ皇太
 子ノ御參拜ハ後世ノ範タルモノアリ。從ヒテ其ノ儀嚴肅
 タリ。即チ八月六日御豫定ノ如ク之ヲ行ハセラル。午前
 六時細雨中人力車ニテ寶日館ヲ御出門、七時外宮行在所
 ニ行啓、略裝ヲ陸軍歩兵少尉ノ正裝ニ改メ給ヒ、禰宜ニ
 先導セシメ御車ニテ第二鳥居迄參進、大麻及鹽ニテ御潔
 齋アリ、板垣御門外ニテ下乗、夫ヨリ御徒歩ニテ外玉垣
 御門ヲ經テ内玉垣御門ニ入ラセラレ御手水ノ事アリ。更
 ニ瑞垣御門ノ御幌内ニ入り正殿階下御座ノ濱床ニ著キ給

へバ、宮司鹿島則文ノ奉レル玉串ヲ、東宮武官長奥保鞞ヲ經テ取ラセラレ、豐受大神宮ニ御拜アリ。訖リテ玉串ヲ奥東宮武官長ニ授ケ、東宮武官長ハ之ヲ鹿島宮司ニ傳フ。次ニ宮司昇階、正殿御戸内ノ案上ニ奠ス。儀畢リテ外宮行在所ニ御退下、其ノ儀略、行啓ノ際ニ同ジ。八時十分同所御出門ニ當リ三重縣知事成川尙義啓スル處アリ、松樹一株ヲ記念トシテ植エサセラル。尋イデ同四十五分内宮行在所ニ到リ、御少憩ノ後、福宜ニ先導セシメ皇大神宮ニ御拜アラセラル。其ノ儀總ジテ外宮ニ於ケルガ如シ。御拜後内宮行在所ニテ略裝ニ御著替アリ。陳列ノ神

圖書寮

二見御發程
遷啓途次ノ
御動靜

實其ノ他ヲ台覽、福宜以上ニ謁ヲ賜フ。御出門ニ際シ神苑内ニ松樹一株ヲ御手植アリ。夫ヨリ神苑會農業館ニ御立寄、神苑會有功者ニ謁ヲ賜ヒ、午前十一時二十五分賓日館ニ遷啓アラセラル。猶ホ皇大神宮。豐受大神宮ヲ始メ兩宮ノ別宮十三所ニ幣帛料。神饌料ヲ奉獻アリ。此ノ地ニ滞ラセラルルコト三週間ニシテ、八月二十日午前六時三十分賓日館御發程遷啓ノ途ニ就キ給フ。途次、鳥羽港ニ御上陸、直ニ前方ナル日和山ニ登臨、近クハ灣口ニ點在セル小島嶼及ビ鳥羽城址ヲ、遠クハ知多。温美兩半島ヲ鳥瞰アラセラレ、暫時御休憩ノ間、地圖ニ依リ

市道
間ノ道
カ

テ二十三年度陸海軍聯合大演習ノ狀ヲ御尋アリ。御下山ノ後、鐵工場棧橋ヨリ端艇ニテ御召艦浪速ニ御移乗、八時三十分解纜アラセラル。航海中、艦上ニテ失火演習ヲ台覽、十一時武豊港ニ投錨、長尾山ナル鳳翔閣ニテ晝餐メ後、愛知縣知事岩村高俊ノ啓ニヨリ、後丘ニ稚松一株ヲ御手植アラセラル。午後一時五十分武豊停車場ヨリ汽車ニ御搭乗濱松停車場ニテ御下車、六時十五分御旅館ナル平野又十郎。氣賀敬太郎方ニ御一泊アリ。二十一日午
前六時十五分濱松停車場御發車、午後三時五十分新橋停車場ニ御著、御機嫌慶シク東宮御所ニ還啓アラセラル。

圖書寮

時ニ四時十五分ナリ。是ヨリ先、新橋停車場ニテハ、天皇御使侍從子爵西四辻公業。載仁親王以下諸員ノ奉迎ヲ受ケサセラル。猶ホ、途中停車場ニ於ケル主ナル奉送迎者ヲ表示スレバ左ノ如シ。

奉送迎者

停車場名	賜謁奉送迎諸員
武豊	愛知縣知事岩村高俊。第三師團長陸軍中將桂太郎
大府	名古屋裁判所檢察正岩田武儀。同判事島田正孝
豊橋	靜岡縣警部長相原安次郎
濱松	靜岡縣知事時任爲基
興津	載仁親王妃愷子
御殿場	陸軍中將子爵會我祐準

前ニモ諸所ニ在リタル例ナリ
「泊」ニハ「寄」ヲ附スル
トシテ「寄」ニテハ「トセサ

市道考カ
間ノ道考カ

濱松ニ御安
著
濱松ヲ御發
程
東宮御所ニ
還啓

テ二十三年度陸海軍聯合大演習ノ狀ヲ御尋アリ。御下山ノ後、鐵工場棧橋ヨリ端艇ニテ御召艦浪速ニ御移乗、八時三十分解纜アラセラル。航海中、艦上ニテ失火演習ヲ台覽、十一時武豐港ニ投錨、長尾山ナル鳳翔閣ニテ晝餐メ後、愛知縣知事岩村高俊ノ啓ニヨリ、後丘ニ稚松一株ヲ御手植アラセラル。午後一時五十分武豐停車場ヨリ汽車ニ御搭乘濱松停車場ニテ御下車、六時十五分御旅館ナル平野又十郎。氣賀敬太郎方ニ御一泊アリ。二十一日午
前六時十五分濱松停車場御發車、午後三時五十分新橋停車場ニ御著、御機嫌鷹シク東宮御所ニ還啓アラセラル。

圖書寮

奉送迎者

時ニ四時十五分ナリ。是ヨリ先、新橋停車場ニテハ、天皇御使侍從子爵西四辻公業。載仁親王以下諸員ノ奉迎ヲ受ケサセラル。猶ホ、途中停車場ニ於ケル主ナル奉送迎者ヲ表示スレバ左ノ如シ。

停車場名	賜儀奉送迎諸員
武 豐	愛知縣知事岩村高俊。第三師團長陸軍中將桂太郎
大 府	名古屋裁判所檢察正岩田武儀。同判事島田正章
豐 橋	靜岡縣警部長相原安次郎
濱 松	靜岡縣知事時任爲基
興 津	載仁親王妃愷子
御 殿 場	陸軍中將子爵會我祐準

手記
濱松ニ御安
著
濱松ヲ御發
程
東宮御所ニ
還啓

還啓ニヨリ
参内

亦、東宮御所ニ於テ天皇御使侍從子爵北條氏恭。皇后御使典侍高倉壽子。皇太后御使權典侍平松好子ニ賜ヲ賜ス。二十二日午前九時御出門参内、天皇。皇后ニ謁シ、行啓中ノ狀ヲ奏啓、御土産品等ヲ進獻アラセラル。夫ヨリ青山御所ニ参候、同ジク啓セラルル處アリ、進獻前ノ如シ。歸途、御産所ニ御立寄、始メテ御妹允子内親王ニ御對面十一時十五分還啓アラセラル。

供奉員

猶ホ行啓ニ當リ供奉ヲ命ゼラレタル者ハ東宮武官長奥保障。東宮侍從長候爵中山孝麿。東宮主事子爵高辻修長。東宮侍從勸解由小路資承。同子爵大宮以季。同子爵小笠

圖書寮

御眞影下賜

原長育。東宮武官岡崎生三。同澁谷在明。同橋周太。同公野鷹司照通。東宮職御用掛丸尾錦作。侍醫原田豊。同加藤照層。御學友西郷從義。同甘露寺受長。同岩倉道俱等ナリ。侍從長佐官日記。行啓録。高辻修長日記。學智院輔仁會雜誌。皇后宮職日記。皇太后宮職日記。官報。侍從職日記。三重縣明治廿四年。東宮殿下二見行啓一件書類。續日本紀。

八月三日、本邦駐劄露西亞國特命全權公使ぢみとリ。しゑーりのち、不日歸國スルヲ以テ、願ノ如ク御眞影ヲ賜ヒ、尋イデ十一月十五日芝離宮ニ於テ引見アラセラル。侍從武官日記。外事録。

富美宮允子
内親王ノ御

十三日、是ヨリ先、八日權典侍園祥子第八皇女子ヲ産

富美宮允子

富美宮

高辻修長

平松好子

高倉壽子

還啓ニヨリ
参内

亦、東宮御所ニ於テ天皇御使侍從子爵北條氏恭。皇后御使典侍高倉壽子。皇太后御使權典侍平松好子ニ賜ヲ賜フ。二十二日午前九時御出門参内、天皇。皇后ニ謁シ、行啓中ノ狀ヲ奏啓、御土産品等ヲ進獻アラセラル。夫ヨリ青山御所ニ参候、同ジク啓セラルル處アリ、進獻前ノ如シ。歸途、御産所ニ御立寄、始メテ御妹允子内親王ニ御對面十一時十五分還啓アラセラル。

供奉員

猶ホ行啓ニ當リ供奉ヲ命ゼラレタル者ハ東宮武官長奥保鞏。東宮侍從長侯爵中山孝麿。東宮主事子爵高辻修長。東宮侍從勘解由小路資承。同子爵大宮以季。同子爵小笠

第八皇女御

御眞影下賜

富美宮允子
内親王ノ御

原長育。東宮武官岡崎生三。同澁谷在明。同橋周太。同公野鷹可憐通。東宮職御用掛丸尾錦作。侍醫原出豊。同加藤照磨。御學友西郷從義。同甘露寺受長。同岩倉道俱等ナリ。侍從長佐賀日記。行啓録。高辻修長日記。學習院輔仁會雜誌。皇后宮職日記。皇太后宮職日記。皇報。侍從職日記。三重縣明治廿四年。東宮殿下二見行啓一件書類。續日本紀。

八月三日、本邦駐劄露西亞國特命全權公使ぢみとりし名一ツのち、不日歸國スルヲ以テ、願ノ如ク御眞影ヲ賜ヒ、尋イデ十一月十五日芝離宮ニ於テ引見アラセラル。侍從武官日記。外事録。

十三日、是ヨリ先、八日權典侍園祥子第八皇女子ヲ産

還啓ニヨリ
参内

亦、東宮御所ニ於テ天皇御使侍從子爵北條氏恭。皇后御使典侍高倉壽子。皇太后御使權典侍平松好子ニ賜ヲ賜フ。二十二日午前九時御出門参内、天皇。皇后ニ謁シ、行啓中ノ狀ヲ奏啓、御土産品等ヲ進獻アラセラル。夫ヨリ青山御所ニ参候、同ジク啓セラルル處アリ、進獻前ノ如シ。歸途、御産所ニ御立寄、始メテ御妹允子内親王ニ御對面。十一時十五分還啓アラセラル。

供奉員

猶ホ行啓ニ當リ供奉ヲ命ゼラレタル者ハ東宮武官長奥保障。東宮侍從長侯爵中山孝廣。東宮主事子爵高辻修長。東宮侍從勸解由小路資承。同子爵大宮以季。同子爵小笠

圖書寮

平松好子
御影

御眞影下賜

富美宮允子
内親王ノ御

明治二十四年八月

三五

原長育。東宮武官岡崎生三。同澁谷在明。同橋周太。同公爵藤司照通。東宮職御用掛丸尾錦作。侍醫原田豊。同加藤照磨。御學友西郷從義。同甘露寺受長。同岩倉道俱等ナリ。侍從長佐日記。行啓録。高辻修長日記。學習院輔仁會雜誌。皇后宮職日記。皇太后宮職日記。東宮職下二見行啓一件書類。續日本紀。

八月三日、本邦駐劄露西亞國特命全權公使ぢみとり。しゑーりゐち、不日歸國スルヲ以テ、願ノ如ク御眞影ヲ賜ヒ、尋イデ十一月十五日芝離宮ニ於テ引見アラセラル。侍從武官日記。外事録。

十三日、是ヨリ先、八日權典侍園祥子第八皇女子ヲ産

ゆき生

還啓ニヨリ
参内

亦、東宮御所ニ於テ天皇御使侍從子爵北條氏恭。皇后御使典侍高倉壽子。皇太后御使權典侍平松好子ニ謁ヲ賜フ。二十二日午前九時御出門参内、天皇。皇后ニ謁シ、行啓中ノ狀ヲ奏啓、御土産品等ヲ進獻アラセラル。夫ヨリ青山御所ニ参候、同ジク啓セラルル處アリ、進獻前ノ如シ。歸途、御産所ニ御立寄、始メテ御妹允子内親王ニ御對面十一時十五分還啓アラセラル。

供奉員

猶ホ行啓ニ當リ供奉ヲ命ゼラレタル者ハ東宮武官長奥保障。東宮侍從長侯爵中山孝麿。東宮主事子爵高辻修長。東宮侍從勸解由小路資承。同子爵大宮以季。同子爵小笠

圖書寮

御眞影下賜

富美宮允子
内親王ノ御

原長育。東宮武官岡崎生三。同澁谷在明。同橋岡太。同公野鷹司照通。東宮職御用掛丸尾錦作。侍醫原田豊。同加藤照層。御學友西郷從義。同甘露寺受長。同岩倉道俱等ナリ。侍從長佐賀日記。行啓録。高辻修長日記。學習院輔仁會雜誌。皇后宮職日記。皇太后宮職日記。皇報。侍從職日記。三重縣明治廿四年。東宮殿下二見行啓一件書類。續日本紀。

八月三日、本邦駐劄露西亞國特命全權公使ぢみとりしをいりち、不日歸國スルヲ以テ、願ノ如ク御眞影ヲ賜ヒ、尋イデ十一月十五日芝離宮ニ於テ引見アラセラル。侍從武官日記。外事録。

十三日、是ヨリ先、八日權典侍園祥子第八皇女子ヲ産

平松好子 招平好子
天皇 自皇后ニ謁ス

中野面カ 中野面カ
四五頁ニハ後者ヲ
誤り也

御名ヲ祝セ
フル

ミ奉ル。是ノ日名ヲ允子ト賜ヒ、富美宮ト稱セラル。偶
御遊者中ニヨリ天皇。皇后。皇太后ニ電報ヲ以テ祝詞ヲ
奏啓、御妹允子内親王ニモ同ジク祝賀ノ電報ヲ進セラル。
猶ホ、實所ニ於ケル奉告祭ニハ、東宮侍從子爵大宮以季
ヲシテ代拜セシム。庶務課日記・儀式祭典録・官報・典
式部・御直宮御養育掛日記・皇太后
行啓録

二十九日、載仁親王ヲ召シ午餐御會食、東宮武官長奥
保軍・東宮主事子爵高江修長ニ陪食ヲ賜フ。侍從武官日
記・高江修
長日記

丸尾教授ヲ
復習ニ侍セ

九月二日、東宮職御用掛學習院教授丸尾錦作ヲシテ、

圖書寮

シム

拜診醫ノ更
迭

爾後、毎夜、御復習ニ侍セシム。從來、御復習ニハ宿直
ノ東宮侍從。東宮武官之ニ奉仕セシガ、一ニハ學問ノ御
進歩ニ伴ヒ、一ニハ毎夜交替勤務ノ勞多キ爲、不便ノ事
少カラザルヲ以テ斯ク定メラル。侍從武
官日記

九日、拜診醫侍醫原田豊、醫學研究ノ爲メ海外留學ニ
ヨリ、侍醫高階經本ヲ拜診醫專務ト爲ス。侍從長佐官日
記・贈賜録

十五日、御妹允子内親王、御養育主任子爵林友幸ノ官
舎ニ移轉スルヲ以テ、御祝トシテ三種交魚ヲ進ゼラル。

贈賜録・御直宮御
養育掛日記・官報

十八日、午後一時十分御出門、濱離宮ニ於テ、學習院

學問ノ進歩カ
侍從長佐官日
記・贈賜録

命名ヲ祝セ
フル

ミ奉ル。是ノ日名ヲ九子ト賜ヒ、富美宮ト稱セフル。偶々
御遊幸中ニヨリ天皇。皇后。皇太后ニ電報ヲ以テ祝詞ヲ
奏啓、御妹九子内親王ニモ同ジク祝賀ノ電報ヲ進ゼラル。
猶ホ、實所ニ於ケル奉告祭ニハ、東宮侍從子爵大宮以季
フシテ代拜セシム。庶務課日記・儀式祭典録・官報・典
式録・御直宮御養育掛日記・皇太后
行啓録

二十九日、載仁親王ヲ召シ午餐御會食、東宮武官長奥
保肇・東宮王學子爵高江修長ニ陪食ヲ賜フ。侍從武官日
記・高江修

長日
記

九月二日、東宮職御用掛學習院教授丸尾錦作ヲシテ、

丸尾教授ヲ
復習ニ待セ

圖書寮

シム

爾後、毎夜、御復習ニ待セシム。從來、御復習ニハ宿直
ノ東宮侍從。東宮武官之二奉仕セシガ、一ニハ學問ノ御
進歩ニ伴ヒ、一ニハ毎夜交替勤務ノ勞多キ爲、不便ノ事
少カラザルヲ以テ斯克定メラル。侍從武
官日記

拜診醫ノ更
迭

九日、拜診醫侍醫原田豊、醫學研究ノ爲メ海外留學ニ
ヨリ、侍醫高階經本ヲ拜診醫專務ト爲ス。侍從長佐官日
記・贈賜録
十五日、御妹九子内親王、御養育主任子爵林友幸ノ官
舎ニ移轉スルヲ以テ、御祝トシテ三種交魚ヲ進ゼラル。
贈賜録・御直宮御
養育掛日記・官報

十八日、午後一時十分御出門、濱離宮ニ於テ、學習院

學問ノ進歩カ
學問ノ進歩カ

①

小堀平七ノ
水泳ヲ御感
賞

ヨリ選抜セル生徒ノ水泳數同ヲ台覽、就中、水泳教師小堀平七ノ泳技ニ御感アリ、謁ヲ賜ヒ、其ノ水書ノ扇面ヲ奉ラシム。尋イデ四時三十分還啓アラセラル。侍從武官日記。行

啓

二十日、芝離宮ヨリ還啓ノ途、正二位中山慶子邸ニ立寄ラセ給ヒ、午後四時五分還啓アラセラル。行啓錄。侍從武官日記

御傳記編纂
係設置

三十日、東宮職高等官諸員相協リ、皇太子御傳記編纂係ヲ設置シ、東宮武官岡崎生三。東宮侍從子爵小笠原長宵ヲ編纂主任トナシ著手セシム。侍從長佐官日記

圖書寮

御答禮ニ關
スル定

十月八日、曩ニ皇太子ノ禮裝或ハ學習院生徒服御著用ノ場合ニ於ケル御答禮等ニ就キ、東宮職員ニ於テ協議スル處アリシガ、是ノ日御答禮ハ陸軍禮式ヲ用ヒ、舉手。注目ノ兩種トナス。前者ハ皇族。軍旗。兵隊。哨兵。官吏奏任以上。華族。從六位。勳六等以上ノ輩及ビ外國人ニ對スル御答禮ニシテ、後者ハ官吏判任以下。陸海軍諸卒。各學校生徒。一般人民ニ對セララルモノナリ。但シ學習院生徒ノ御資格ノ場合ハ同院規則ニ據ラセラルル事ニ定ム。口達錄。侍從長佐官日記

十一日、午前十時御出門參内、歸途、候爵中山孝麿邸

小堀平七ノ
水泳ヲ御感
賞

ヨリ選抜セル生徒ノ水泳數同ヲ台覽、就中、水泳教師小堀平七ノ泳技ニ御感アリ、謁ヲ賜ヒ、其ノ水書ノ扇面ヲ奉ラシム。尋イデ四時三十分還啓アラセラル。侍從武官日記。行

録啓

二十日、芝離宮ヨリ還啓ノ途、正二位中山慶子邸ニ立寄ラセ給ヒ、午後四時五分還啓アラセラル。行啓録。官報。侍從武

官日
記

三十日、東宮職高等官諸員相協リ、皇太子御傳記編纂係ヲ設置シ、東宮武官岡崎生三。東宮侍從子爵小笠原長育ヲ編纂主任トナシ著手セシム。侍從長佐官日記

御傳記編纂
係設置

圖書寮

御答禮ニ關
スル定

十月八日、藝ニ皇太子ノ禮裝或ハ學習院生徒服御着用ノ場合ニ於ケル御答禮等ニ就キ、東宮職員ニ於テ協議スル處アリシガ、是ノ日御答禮ハ陸軍禮式ヲ用ヒ、舉手。注目ノ兩種トナス。前者ハ皇族。軍旗。兵隊。哨兵。官吏奏任以上。華族。從六位。勳六等以上ノ輩及ビ外國人ニ對スル御答禮ニシテ、後者ハ官吏判任以下。陸海軍諸卒。各學校生徒。一般人民ニ對セラルルモノナリ。但シ學習院生徒ノ御資格ノ場合ハ同院規則ニ據ラセラルル事ニ定ム。口達録。侍從長佐官日記

十一日、午前十時御出門參内、歸途、候爵中山孝廣邸

御負傷

ニ御立寄、狹窄射撃。弓。垂綸等ノ御慰アリ、午後四時二十五分還啓アラセラル。侍從長佐官日記。行啓。高辻修長日記。官報。

十五日、午後三時三十分、赤坂離宮内運動場ニ於テ御遊戯中「しやうけるぶらつと」ニテ、御顔面ニ輕傷ヲ貰ハセラル。侍醫池田謙齋直ニ御手當ヲ施シ奉リ、二十八日ニ至リテ快癒アラセラル。侍醫御容體細日記。侍醫局日記。侍從長佐官日記。

是ノ日、神奈川縣下ニ於テ近衛諸兵機動演習ヲ行フニヨリ、東宮武官橋周太ヲ遣シ、之ヲ實視セシムルノ命アリ。官報・總務課進退録。

二十八日、岐阜。愛知兩縣地方ニ大地震アリ、其ノ餘

演習地へ武官差遣

圖書寮

天長節觀兵式公式階覽

朝彦親王 去

震東京ニ及フヲ以テ、天機竝ビニ御機嫌ヲ奉伺シ、翌二十九日電報ヲ以テ京都御滞在申ナル皇太后ノ御機嫌ヲ候ハセラル。奉宮記 附箋。

十一月三日、天長節觀兵式ニヨリ、午前八時三十分御出門、青山練兵場ニ行啓、臨幸ヲ奉迎、分列式中御愛馬磐谷號ヲ御シ、天皇ノ御左側後方ニ於テ陪覽、十時三十分還啓アラセラル。是ヲ以テ立太子後、觀兵式公式階覽ノ囑矢トナス。侍從長佐官日記。高辻修長日記。官報。

七日、是ヨリ先、十月二十九日神宮祭主大勳位朝彦親王薨ズルヤ祭料金五百圓ヲ進ゼラレシガ、是ノ日京都

天長節觀兵式ハ何
 朝彦親王ハ何
 去

和

明治二十四年十一月

四二

朝彦親王

泉山ニ於テ葬儀ヲ行フニヨリ、宮邸竝ビニ墓所ニ御使トシテ王殿助宇田淵ヲ遣シ、玉串ヲ供奠シテ代拜セシム。親王ハ邦家親王ノ第二十二ニシテ、夙ニ一乘院ニ入りテ尊應ト稱シ、後、青蓮院ニ移リテ尊融ト改ム。嘉永五年天台座主ニ補セラル。偶々倒幕攘夷ノ論沸騰スルニ及ビ、勅ヲ奉ジテ國事掛ト爲リ、文久三年中川宮ノ稱ヲ賜ヒ、復飾シテ朝彦ト勅名セラレ彈正尹ニ任ズ。爾來專心國事ニ勵ミ、自フ輔弼ノ重任ニ當リ、孝明天皇ノ寵ヲ忝ウス。後、故アリテ安藝國ニ移リテ謹慎スル事年アリ。明治三年漸ク復歸ヲ許サレ、尋イデ三品ニ敘シ宮號ヲ復セラル。

圖書寮

猷仁親王三年御式年祭

明治二十四年十一月

四三

即チ賀陽宮ト稱ス。因ニ此ノ號ハ元治元年十月中川宮ヲ改メテ以來使用スル處ナリ。明治八年命ニヨリテ稱ヲ久邇宮ト改ム。同年七月神宮祭主ニ任ゼラレ、十二月勅一等賞牌ヲ、尋イデ十九年十二月大勳位菊花大綬章ヲ授ケラレタリ。儀式祭典錄・贈賜錄・官報・青蓮歌集・岩倉公實記是ノ日、東宮武官陸軍騎兵少佐澁谷在明ノ本職ヲ免ジ、騎兵監副官ニ轉補シ、例ノ如ク賜物アリ。侍從武官日記・官員進退錄・贈賜錄・官報十四日、猷仁親王三年御式年祭ニヨリ、東宮侍從勘解由小路資承ヲ靈前竝ビニ墓所ニ遣シ代拜セシム。儀式祭典錄

猷仁親王三年御式年祭

新編

朝彦親王略

泉山ニ於テ葬儀ヲ行フニヨリ、宮邸竝ビニ墓所ニ御使トシテ王殿助宇田淵ヲ遣シ、玉串ヲ供奠シテ代拜セシム。親王ハ邦家親王ノ第二ニシテ、夙ニ一乘院ニ入りテ尊應ト稱シ、後、青蓮院ニ移リテ尊融ト改ム。嘉永五年天台座主ニ補セラル。偶々倒幕攘夷ノ論沸騰スルニ及ビ、勅ヲ奉ジテ國事掛ト爲リ、文久三年中川宮ノ稱ヲ賜ヒ、復飾シテ朝彦ト勅名セラレ彈正尹ニ任ズ。爾來專心國事ニ勵ミ、自フ輔弼ノ重任ニ當リ、孝明天皇ノ寵ヲ忝ワス。後、故アリテ安藝國ニ移リテ謹慎スル事年アリ。明治三年漸ク復歸ヲ許サレ、尋イデ三品ニ叙シ宮號ヲ復セラル。

圖書寮

猷仁親王三年御式年祭

即チ賀陽宮ト稱ス。因ニ此ノ號ハ元治元年十月中川宮ヲ改メテ以來使用スル處ナリ。明治八年命ニヨリテ稱ヲ久遠宮ト改ム。同年七月神宮祭主ニ任ゼラレ、十二月勅一等賞牌ヲ、尋イデ十九年十二月大勅位菊花大綬章ヲ授ケラレタリ。儀式祭典錄・贈賜錄・官報・青蓮歌集・岩倉公實記是ノ日、東宮武官陸軍騎兵少佐澁谷在明ノ本職ヲ免ジ、騎兵監副官ニ轉補シ、例ノ如ク賜物アリ。侍從武官日記・官員進退錄・贈賜錄・官報十四日、猷仁親王三年御式年祭ニヨリ、東宮侍從勘解由小路資承ヲ靈前竝ビニ墓所ニ遣シ代拜セシム。儀式祭典錄・

成城學校ニ
行啓

典式録
官報

二十九日、市ヶ谷原町ナル成城學校ニテ開校式後、運動會ヲ催スヲ以テ午後一時御出門、行啓アリ。校長川上操六ノ御案内ニテ生徒ノ諸技ヲ台覽、三時還啓アラセラ
ル。侍從長佐官日記。
行啓録・官報

十二月五日、午後一時、第三師團長陸軍中將黒川通軌。第五師團長陸軍中將野津道貫。第二師團長陸軍中將佐久間左馬太。第一師團長山地元治。第六師團長陸軍中將野崎貞澄。陸軍次官陸軍中將桂太郎竝ビニ吳鎮守府司令長官海軍中將中牟田倉之助。佐世保鎮守府司令長官海軍中

圖書寮

載仁親王ノ
結婚ヲ祝シ
給フ

將赤松則良。海軍大學校長海軍中將林清康ヲ召シ謁ヲ賜ヒ、皇宮警察員ノ擊劍ヲ陪覽セシメ、畢リテ立食ヲ賜フ。
官報・侍從
長佐官日記

六日、午前九時御出門、隅田川ニ於ケル海軍短艇競漕會ニ行啓、競漕十三回ヲ台覽、午後四時四十分還啓アラセラル。後刻、同會總裁成仁親王御禮ノ爲メ伺候セルニヨリ御對顔アリ。
行啓録・侍從長
佐官日記・官報

十九日、載仁親王、故正一位大勳位公爵三條實美第二女智恵子ト結婚ノ御禮トシテ伺候セルヲ以テ、御座ノ間ニ於テ御對顔、尋イデ御次ノ間ニ於テ茶菓ヲ賜ヒ、暫時

伺候セルヲ以テハ
何候セルニ依リテ
茶菓ヲ賜フ

成城學校ニ
行啓

典式錄
官報

二十九日、市ヶ谷原町ナル成城學校ニテ開校式後、運動會ヲ催スヲ以テ午後一時御出門、行啓アリ。校長川上操六ノ御案内ニテ生徒ノ諸技ヲ台覽、三時還啓アラセラ

ル。侍從長佐官日記・行啓錄・官報

十二月五日、午後一時、第三師團長陸軍中將黒川通軌。第五師團長陸軍中將野津道貫。第二師團長陸軍中將佐久間左馬太。第一師團長山地元治。第六師團長陸軍中將野崎貞澄。陸軍次官陸軍中將桂太郎竝ビニ吳鎮守府司令長官海軍中將中牟田倉之助。佐世保鎮守府司令長官海軍中

圖書寮

將赤松則良。海軍大學校長海軍中將林清康ヲ召シ謁ヲ賜ヒ、皇宮警察員ノ擊劍ヲ陪覽セシメ、畢リテ立食ヲ賜フ。官報・侍從長佐官日記

六日、午前九時御出門、隅田川ニ於ケル海軍短艇競漕會ニ行啓、競漕十三回ヲ台覽、午後四時四十分還啓アラセラル。後刻、同會總裁成仁親王御禮ノ爲メ何候セルニヨリ御對顔アリ。行啓錄・侍從長佐官日記・官報

十九日、載仁親王、故正一位大勳位公曾三條實美第二女智恵子ト結婚ノ御禮トシテ何候セルヲ以テ、御座ノ間ニ於テ御對顔、尋イデ御次ノ間ニ於テ茶菓ヲ賜ヒ、暫時

載仁親王ノ
結婚ヲ祝シ
給フ

何候セルヲ以テハ何候セラレタ
シメテ改メテ撰前トスル

御對話アリ。退出ニ當リテ妃ニ白縮緬壹疋ヲ賜フ。侍從長佐

參謀本部ニ
行啓

二十五日、午後一時御出門、參謀本部ニ行啓、測量圖調製各器械等ヲ台覽、説明ヲ御聽取、三時還啓アラセラル。行啓錄・侍從長佐官日記・官報

高千穂艦ニ
行啓

二十七日、午前九時御出門、濱離宮ニ到リ、第一艦隊司令長官海軍少將有地品之允。浪速艦長海軍大佐新井有貫以下ノ奉迎ヲ受ケ、直ニ端艇ニテ小蒸汽船ニ御移乗、更ニ品川沖碇泊中ナル常備艦隊代理旗艦高千穂艦ニ行啓、時ニ碇泊セル各艦一齊ニ皇禮砲ヲ行フ。御乘艦後、艦内

ヲ御巡覽、尋イデ諸砲運轉。魚形水雷ノ裝置竝ビニ發射法其ノ他種々作業ヲ台覽アリ。御退艦ニ臨ミ御紋附銀盃壹個ヲ賜ヒ、四時還啓アラセラル。行啓錄・侍從長佐官日記
二十八日、午前九時三十分御出門、青山練兵場ニ行啓、新兵ノ教練ヲ台覽ノ後、近衛歩兵第四聯隊將校集會場ニ於テ暫時御休息、十一時二十分還啓アラセラル。侍從長佐官日記・行啓錄・官報

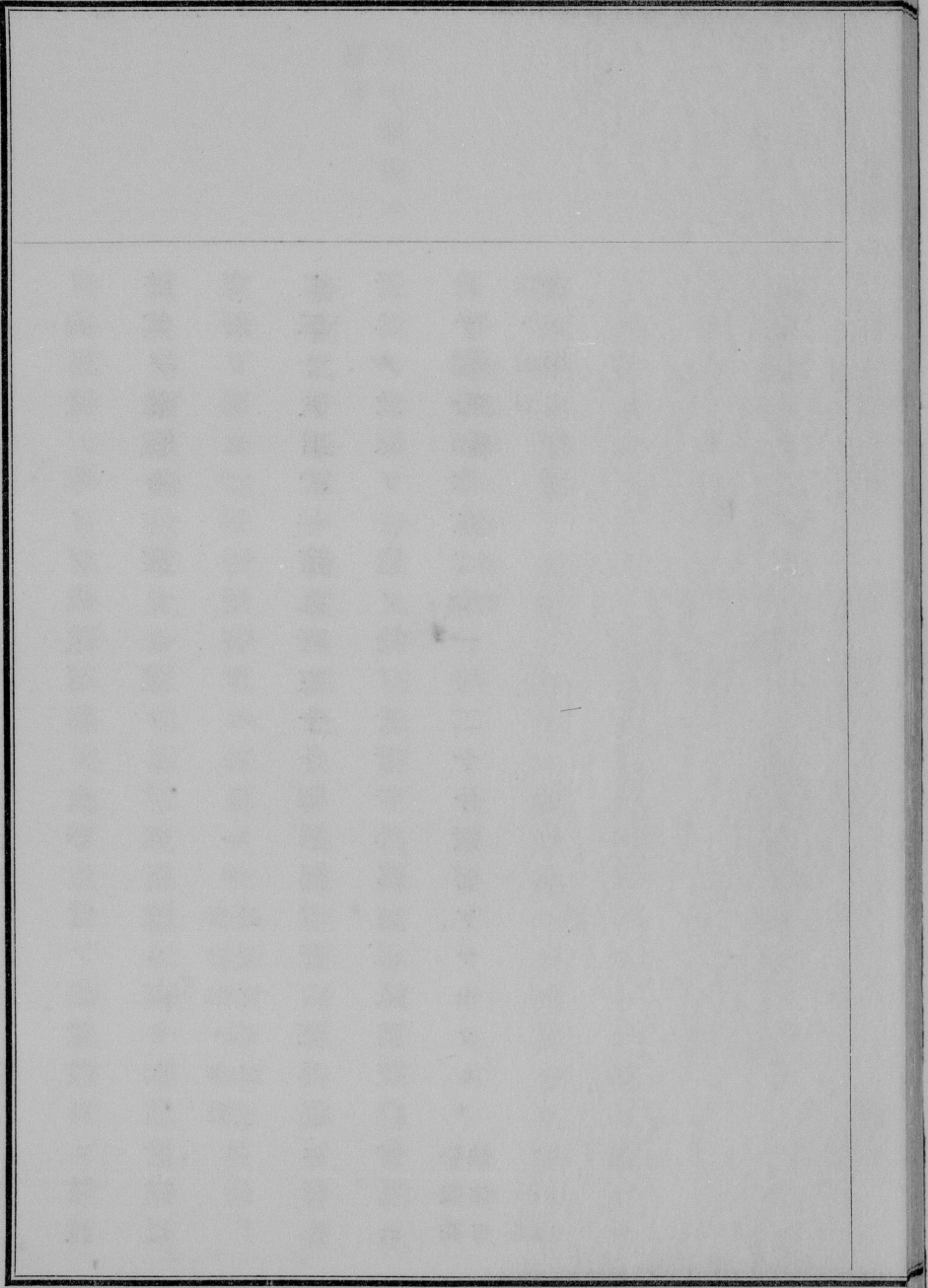
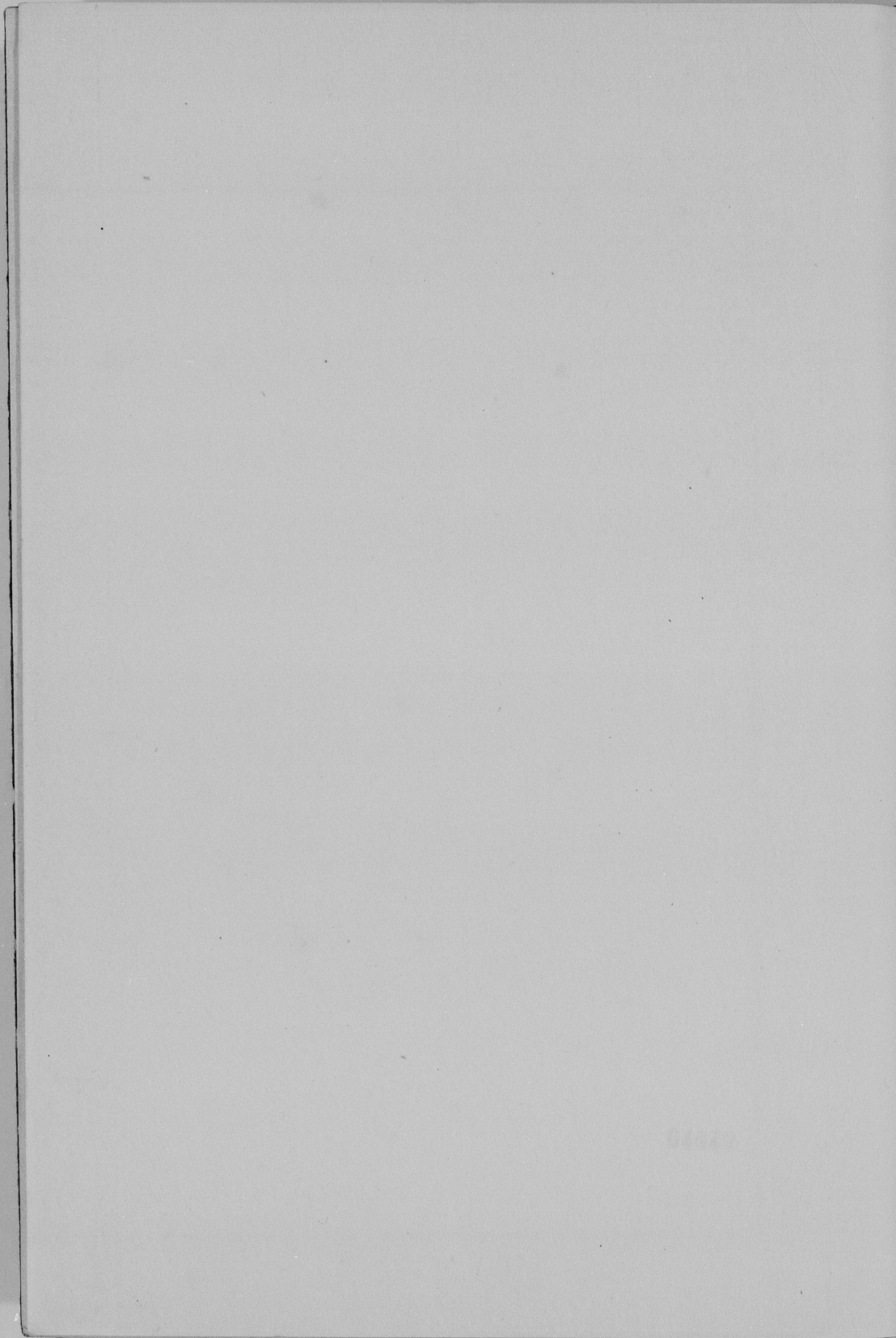


圖
書
寮

3201 370

64047

3201 371

